

**Q. 1月にはトラブルが連続して発生したけれど、伊方発電所の安全性を高めるため、どのようなことに取り組んでいるの？**

- 皆さまには大変ご心配をおかけいたしました。四国電力では、各トラブルの直接的な原因を踏まえた再発防止策を確実に実施していくことはもちろん、それぞれの背後にある要因や、社外からのご意見を踏まえた視点など、あらゆる観点で幅広く行った調査から5件の改善余地や不十分な点を確認し、これに対応する改善策の実践に取り組んでいます。

**改善策**

作業要領書の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の定期検査に使用する全作業要領書を総点検</li> <li>▶ 記載内容を見直し、充実させるなどの改善を実施しました。新たに制定する要領書についても同様の充実を図っていきます。</li> </ul>
作業計画段階のレビュー強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業計画を独立した立場からチェックする新チームを設置</li> <li>▶ 発電所の安全性向上を担う中核組織として育てていきます。</li> </ul>
包括的な改善活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微な気づきを幅広く収集</li> <li>▶ できる限り多くの改善事項を抽出して確実に対応していきます。</li> </ul>
安全意識共有の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹部と発電所員、関係会社等との意見交換を継続</li> <li>▶ 発電所内のコミュニケーションを一層充実させていくとともに、海外事例も含めた幅広い情報収集などにより、安全文化を育んでいきます。</li> </ul>
技術力・現場力の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育訓練の機会を増やすことに加え、ベテラン社員・作業員の経験や視点を踏まえ、作業要領書の記載内容を充実</li> <li>▶ 確実な技術継承を図り、他の電力会社やメーカーなどとも連携して技術力・現場力の向上に取り組んでいきます。</li> </ul>

- 今後、地域の皆さまにこれらの実践状況を丁寧にご説明するとともに、愛媛県知事および伊方町長からご要請いただいた項目をしっかりと受け止め、所員一丸となり、発電所の更なる安全性向上に全力で取り組んでまいります。

**Q. 新型コロナウイルス感染防止のため、伊方発電所ではどのような対策をしているの？**

- 発電所員の「3密」回避やマスク着用、共用設備の定期的な消毒といった対策はもちろん、発電所に入構する作業員に対しても、以下の対策を徹底しています。

<b>〈新たに入構する作業員〉</b> ・入構前2週間にわたる健康チェックとPCR検査の実施 ・「3密」への立ち入りが確認された場合は、2週間の入構禁止	<b>〈既に入構している作業員〉</b> ・毎日の健康状態確認と「3密」の回避徹底 ・四国外への移動自粛
--	--

- 本年8月に再開した3号機の定期検査や、昨年6月に着工したテロ対策施設(特定重大事故等対処施設)の設置工事にあたりましては、作業の安全確保はもとより、新型コロナウイルスへの感染防止にも万全を期してまいります。

**Q. 運転を終了した1・2号機の廃炉についてはどうなっているの？**

- 1号機では、2017年9月、約40年を予定している廃止措置作業を開始しました。引き続き、安全の確保を最優先に着実に作業を進めてまいります。
- 2号機については、廃止措置計画について国の認可を受け、愛媛県・伊方町から安全協定に基づくご了解をいただいたうえで、作業を開始します。

■ 伊方発電所に対するご意見・ご要望 (平日9:00~17:00)  
 原子力本部 エネルギー広報グループ TEL:089-946-9730 伊方発電所 広報課 TEL:0894-39-1701

**地域の皆さまへ**

本年1月、伊方発電所で4件のトラブルが相次いで発生し、皆さまに大変ご心配をおかけいたしました。現在、当社では、各トラブルの徹底的な原因調査を踏まえた再発防止策を確実に実施するとともに、トラブルが連続した背景も踏まえた総括的な改善策の実践に努めているところでございます。こうした中、本年8月に再開した3号機の定期検査につきましては、慎重のうえにも慎重を期し、緊張感をもって作業を進めております。

当社といたしましては、引き続き、迅速・的確な情報公開を徹底することはもとより、発電所の安全性をさらに高めるための取り組みに全力を尽くし、皆さまからご信頼いただける「より良い」伊方発電所を目指してまいります。


さて、本日は、発電所敷地内への設置を計画している使用済燃料乾式貯蔵施設の概要などをご紹介しますリーフレットをお届けいたしました。

皆さまには、これからも丁寧に分かりやすく情報を発信してまいりますので、今後とも、発電所の運営にご理解を賜りますようお願い申し上げます。


四国電力株式会社 取締役社長 社長執行役員 **長井 啓介**



四国電力では、原子力に対する皆さまのご不安や疑問の声に少しでもお応えできるよう、毎年、社員が各ご家庭を訪問し、直接ご意見をうかがう活動を行っておりますが、本年は、新型コロナウイルスへの感染予防・拡大防止の観点から、従来の活動を見合わせることにいたしました。このため、本日お届けしたリーフレットの内容に関するものをはじめ、発電所についてのご質問や日頃からお気づきの点などがございましたら、

・同封の郵便はがき あるいは  
 ・電子メール(専用メールアドレス:chiiki-voice@yonden.co.jp)  にてお寄せください。

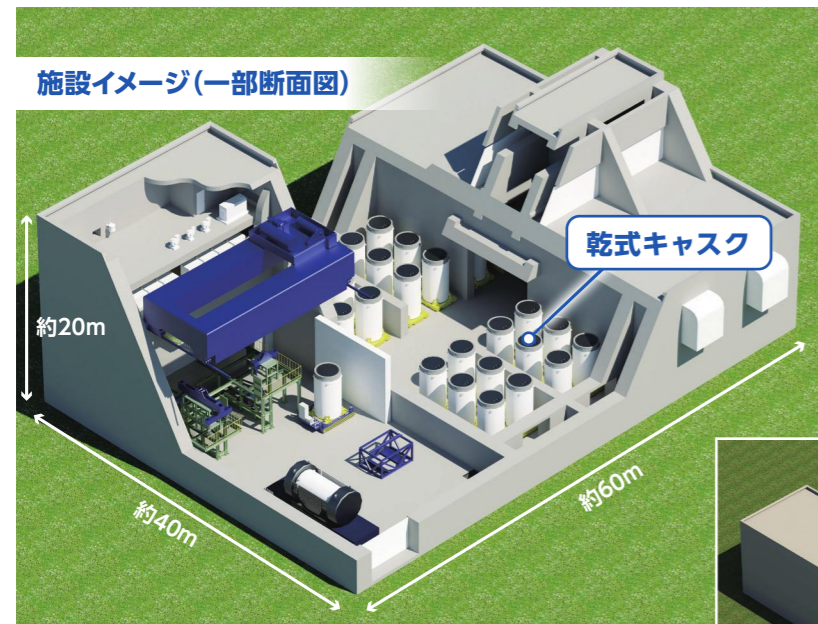
連続して発生したトラブルの再発防止と新型コロナウイルス感染防止への取り組みを動画でご紹介しています

● 地域のケーブルテレビ局での放送 (八西CATV、ケーブルネットワーク西瀬戸、西予CATV) ● 四国電力 ホームページ (10月31日まで) 

# 使用済燃料乾式貯蔵施設の概要について

四国電力では、伊方発電所で使い終わった燃料(使用済燃料)を一時的に貯蔵するため、発電所敷地内に「乾式貯蔵施設」を新たに設置するための準備を進めています。2018年5月には、施設の基本設計を取りまとめた申請書を国に提出し、厳格な審査を受けてまいりましたが、本年9月に許可をいただきました。今後、愛媛県・伊方町から安全協定に基づくご了解をいただいたうえで、2024年度からの運用開始を目指してまいります。

## ■ 乾式貯蔵施設とは

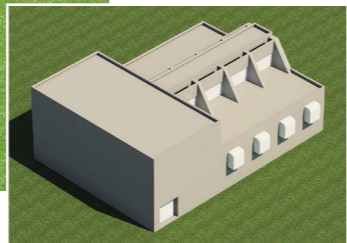


施設イメージ(一部断面図)

乾式キャスク

発電所内の使用済燃料ピット(プール)で十分に冷やされた燃料を、「乾式キャスク」と呼ばれる金属製の頑丈な容器に収納し、貯蔵する施設です。

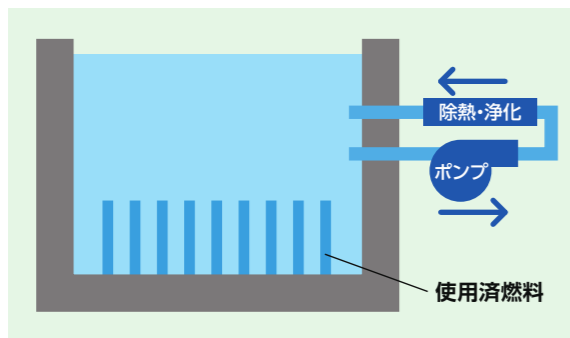
水や電気を使わず、空気の自然な流れで冷やしながら貯蔵することができ、安全性に優れています。



(全体図)

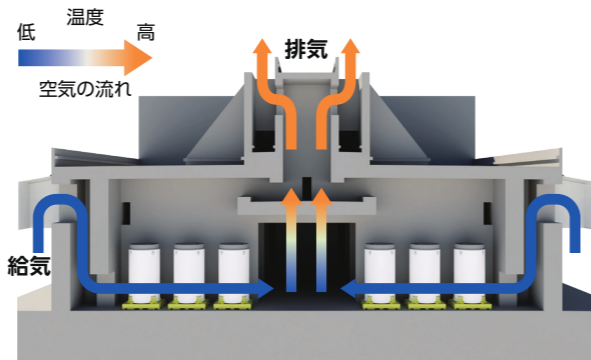
## 使い終わった燃料を冷やすしくみ

### 水を使って冷やす(湿式)



現在、伊方発電所では、使い終わった燃料を、所内にある使用済燃料ピットと呼ばれるプールの中に移し、ポンプで水を循環させながら冷やすことで、安全に貯蔵しています。

### 空気の自然な流れで冷やす(乾式)



今回の計画は、プールで十分に冷やされた燃料の一部について、より安全に貯蔵するための、新たな施設を設置しようとするものです。

## Q. 乾式キャスクに入れた燃料は、ずっと伊方発電所に置いておくの?

### ▶ 伊方発電所に貯蔵し続けることはありません。

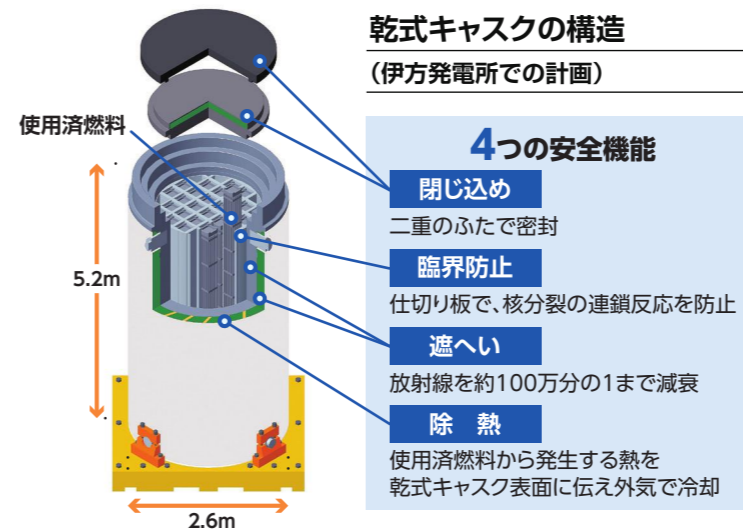
乾式貯蔵施設は、プールと同じく、使い終わった燃料をリサイクルするための工場(再処理工場\*)に搬出するまでの間、一時的に貯蔵するための施設であり、使用済燃料を発電所に置き続けることはありません。

また、伊方発電所で使用する乾式キャスクは、そのまま再処理工場へ搬出できる**輸送・貯蔵兼用**となっています。

※本年7月、国の安全審査に合格(事業主体:日本原燃株式会社)

## Q. 使い終わった燃料をプールではなく、乾式キャスクに貯蔵するのは危険ではないの?

### ▶ 十分安全に貯蔵することができます。



乾式キャスクは、放射性物質の漏れを防止する「閉じ込め」や放射線を100万分の1のレベルにまで遮る「遮へい」をはじめとした**4つの安全機能**を備えています。

また、プールで15年以上にわたって貯蔵し、使用直後に比べて十分に冷やされた燃料を移動させるため、空気の自然な流れで冷やす乾式貯蔵施設で十分安全に貯蔵することができます。

人がすぐそばまで近づいても問題ありません。

## Q. 周りの放射線量は増えないの?

### ▶ これまでと変わらず、発電所の周りの皆さまへの影響はありません。

燃料から出る放射線は、プールで15年以上貯蔵している間に大幅に減ります。

また、放射線を出す物質は、乾式キャスクの中にしっかり閉じ込められていることはもちろん、そこから出る放射線は乾式キャスク本体や建屋の壁・天井などで遮ることなどから、発電所の敷地境界付近の放射線量はこれまでと変わりません。

## Q. 大きな地震が来ても大丈夫なの?

### ▶ 大規模な地震が来ても、安全性に問題はありません。

燃料は耐震性を有する建屋の中で頑丈な金属製キャスクに収納するため、仮に伊方発電所で想定される最大の地震が発生しても安全性に問題はありません。

